

科目名	医学英語								
科目名(英)									
単位数	1	時間数	30時間	担当者	御手洗 裕美				
実施年度	2019年度	実施時期	通年(前期)	実務家教員 担当科目	○				
対象学科・学年	言語聴覚学科 2年								
授業概要	生体各組織の機能や疾患について理解し、医学的な英単語を覚えることを目標とする。また医学英単語を含む文章に慣れ、読解力を身につけ、医学論文に触れるきっかけを作る								
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標			
	○	○				それぞれの病態で使用される専門用語が日本語と英語で照らし合わせることができる			
	○	○				英語の医学論文を読むために必要な基礎的な英語表現を理解することができる。			
テキスト・教材 参考図書	教科書:やさしい医学英語 Introduction to Medical English 編集 青野淳子 執筆 青野淳子 Daniel P Considine								
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示			
	1	やさしい医学英語Introduction : Chapter 1 : Cell, Organ and System				本日の授業資料の復習をする			
	2	やさしい医学英語 Chapter 3 : Blood				本日の授業資料の復習をする			
	3	やさしい医学英語 Chapter 7-1 : Nervous System				本日の授業資料の復習をする			
	4	やさしい医学英語 Chapter 7-2 : Disorders of the Nervous System				本日の授業資料の復習をする			
	5	やさしい医学英語 Chapter 8-1 : Musculoskeletal System				本日の授業資料の復習をする			
	6	やさしい医学英語 Chapter 8-2 : Disorders of the Musculoskeletal System				本日の授業資料の復習をする			
	7	やさしい医学英語 Chapter 9-1 : Skin and Sensory System				本日の授業資料の復習をする			
	8	やさしい医学英語 Chapter 9-2 : Disorders of the Skin and Sensory System				本日の授業資料の復習をする			
	9	やさしい医学英語 Chapter 11-1 : Endocrine System				本日の授業資料の復習をする			
	10	やさしい医学英語 Chapter 11-2 : Disorders of the Endocrine System				本日の授業資料の復習をする			
	11	リハビリテーション英会話①				本日の授業内容についてスピーキングを行う			
	12	リハビリテーション英会話②				本日の授業内容についてスピーキングを行う			
	13	リハビリテーション英会話③				本日の授業内容についてスピーキングを行う			
	14	リハビリテーション英会話④				本日の授業内容についてスピーキングを行う			
15	まとめ								
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。								
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	定期試験(筆記)	◎	◎				80%		
	小テスト	◎	◎				20%		
履修上の注意									

科目名	内科学(老年医学含む)						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	30時間	担当者	眞崎 義憲		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	言語聴覚学科 2年						
授業概要	基本的な医学知識をもとに、内科疾患の基本的な病型や病態、症状を知ることができる。また各器官の代表的な疾患について理解し臨床でのリスク管理などについて理解できる						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					基本的な内科疾患の病型・病態・症状について理解できる	
	○					各器官の代表的な病型・病態・症状について理解できる	
	○					言語聴覚士として触れる患者様に対するリスク管理について理解できる	
テキスト・教材 参考図書	教科書: コメディカルのための専門基礎分野テキスト「内科学」(中外医学社)						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	「内科学総論」 内科概論、循環器疾患			授業に該当する教科書の部分について復習すること		
	2	腎疾患、水電解質代謝、呼吸器疾患、消化管疾患、肝・胆・膵疾患			授業に該当する教科書の部分について復習すること		
	3	血液・造血器疾患、代謝性疾患、内分泌疾患、感染症、寄生虫疾患			授業に該当する教科書の部分について復習すること		
	4	中毒性疾患、神経疾患、膠原病			授業に該当する教科書の部分について復習すること		
	5	「内科学各論」 循環器疾患			授業に該当する教科書の部分について復習すること		
	6	腎臓・泌尿器疾患			授業に該当する教科書の部分について復習すること		
	7	呼吸器疾患			授業に該当する教科書の部分について復習すること		
	8	消化器疾患			授業に該当する教科書の部分について復習すること		
	9	肝・胆・膵疾患、代謝性疾患			授業に該当する教科書の部分について復習すること		
	10	内分泌疾患、感染症・寄生虫疾患			授業に該当する教科書の部分について復習すること		
	11	自己免疫疾患(膠原病)			授業に該当する教科書の部分について復習すること		
	12	血液疾患			授業に該当する教科書の部分について復習すること		
	13	神経疾患、中毒性疾患			授業に該当する教科書の部分について復習すること		
	14	総復習			授業に該当する教科書の部分について復習すること		
15	まとめ						
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)		○				70%
	小テスト		○				30%
履修上の注意							

科目名	リハビリテーション医学						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	30時間	担当者	飯塚病院 他		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	言語聴覚学科 2年						
授業概要	リハビリテーション医療の役割について理解し、その構造を把握する。また、リハビリテーション医学における担い手の役割について把握し、チームアプローチの重要性を理解する。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				リハビリテーション医学の成り立ち、理念について概説することができる。	
	○					医療チームを構成する職種を列挙できる。	
		○			○	他職種と言語聴覚士の協業について概説することができる。	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	リハビリテーション医学の成り立ち			レポート作成のために授業内容の要点をまとめておく。		
	2	リハビリテーションの理念と対象			レポート作成のために授業内容の要点をまとめておく。		
	3	診断と評価 各種疾患の臨床 1			レポート作成のために授業内容の要点をまとめておく。		
	4	診断と評価 各種疾患の臨床 2			レポート作成のために授業内容の要点をまとめておく。		
	5	リハビリテーション医学とリハビリテーションの全体像			レポート作成のために授業内容の要点をまとめておく。		
	6	リハビリテーションチームについて			レポート作成のために授業内容の要点をまとめておく。		
	7	各種アプローチについて 看護学			レポート作成のために授業内容の要点をまとめておく。		
	8	各種アプローチについて 社会福祉学			レポート作成のために授業内容の要点をまとめておく。		
	9	各種アプローチについて PT概論(理学療法とは)			レポート作成のために授業内容の要点をまとめておく。		
	10	各種アプローチについて OT概論(作業療法とは)			レポート作成のために授業内容の要点をまとめておく。		
	11	各種アプローチについて 介護福祉士の仕事			レポート作成のために授業内容の要点をまとめておく。		
	12	各種アプローチについて 歯科衛生士とSTとのかわり			レポート作成のために授業内容の要点をまとめておく。		
	13	チームアプローチについて			レポート作成のために授業内容の要点をまとめておく。		
	14	リハビリテーション医療の実際			レポート作成のために授業内容の要点をまとめておく。		
15	まとめ			レポート課題			
評価方法	(1)レポートを数回実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	レポート	○	○				100%
履修上の注意							

科目名	臨床神経科学						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	30時間	担当者	片伯部 裕次郎		
実施年度	2019年度	実施時期	通年(前期)	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	言語聴覚学科 2年						
授業概要	神経内科の基礎知識の習得						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
				実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	目標		
	○				神経内科におけるリハビリテーションの評価方法を概説できる。		
	○				脳神経に関する生理、病理、解剖を概説できる。		
	○				中枢神経、末梢神経に関する病態について概説することができる。		
	○				高次脳機能障害について概説することができる。		
○				嚥下機能、気管切開、胃ろうについて概説することができる。			
テキスト・教材 参考図書	教科書: 医学書院:標準理学療法学・作業療法学 ~専門基礎分野~, 神経内科学 PT,OT基礎から学ぶ神経内科学ノート:医歯薬出版						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	リハの総論。神経内科におけるリハビリ評価方法。				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	2	神経内科に必要な生理、病理、解剖学				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	3	脳XII神経(前編)				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	4	脳XII神経(後編)				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	5	神経内科の検査方法。筋電図、筋生検、CT、MRIなど				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	6	意識障害、記憶				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	7	筋の萎縮、錐体路症状、中枢性麻痺と末梢性麻痺				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	8	錐体外路と不随意運動				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	9	失調症の検査と診断				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	10	高次脳機能障害1(失認、失語、失行)				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	11	高次脳機能障害2(失認、失語、失行)				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	12	嚥下機能、気管切開、胃ろう				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	13	まとめ				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	14	まとめ				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
15	まとめ						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○	○				100%
履修上の注意							

科目名	臨床心理学						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	30時間	担当者	富永 明子		
実施年度	2019年度	実施時期	通年(前期)	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	言語聴覚学科 2年						
授業概要	臨床心理学の基礎理論を学ぶことを通して、人のこころのしくみ、およびこころの問題について理解する。さらに、代表的な心理アセスメント、心理療法について学習し、臨床心理学的な支援の具体的方法について知り、理解する。さらに、他者との関わりや自分自身についての思考、感情、言動をふり返り、理解する視点をもつ機会とする。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
				実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	目標		
	○	○			人格理論を列挙できる。また、それぞれについて概説できる。		
	○	○			発達理論を列挙できる。また、それぞれについて概説できる。		
	○	○			心理アセスメントを列挙できる。また、それぞれについて概説できる。		
	○	○			心理療法を列挙できる。また、それぞれについて概説できる。		
			○	○	他者とのかかわりや自分自身について振り返り、理解する視点を持つことができる。		
テキスト・教材 参考図書	教科書: 「心とかかわる臨床心理」—基礎・実際・方法」川瀬正裕・松本真理子・松本英夫著 ナカニシヤ出版 「はじめて学ぶ人の臨床心理学」杉原一昭監修 中央法規出版						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	授業の概要、臨床心理学とは何か				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	2	人格理論① 精神分析理論、分析的心理学				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	3	人格理論② 自己理論、自己愛理論				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	4	発達理論① 分離-個体化理論、対象関係論				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	5	発達理論② 心理・社会的発達理論				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	6	心理アセスメント① 情報の収集と整理、発達検査、知能検査				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	7	心理アセスメント② 人格検査(質問紙法)				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	8	心理アセスメント③ 人格検査(投影法)、その他の検査				カラーージュを作成する。	
	9	心理療法① 心理療法の基本的態度、クライエント中心療法				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	10	心理療法② 精神分析療法、分析的心理療法				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	11	心理療法③ 遊戯療法、芸術療法				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	12	心理療法④ 森田療法、家族療法				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	13	心理療法⑤ 行動療法、認知行動療法				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	14	心理療法⑥ 自律訓練法、集団心理療法				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
15	まとめ						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○	◎				100%
履修上の注意							

科目名	学習・認知心理学						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	30時間	担当者	大森 晶子		
実施年度	2019年	実施時期	通年(前期)	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	言語聴覚学科 2年						
授業概要	高次脳などに深く関わる人の認知を理解する						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
				実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				視覚メカニズムについて概説することができる。	
	○	○				条件付けについて概説することができる。	
	○	○				強化および消去について概説することができる。	
	○	○				社会的学習について概説することができる。	
	○	○				視覚・学習について概説することができる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書:学習の心理 行動のメカニズムを探る サイエンス社						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	視覚メカニズムとレポート様式				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	2	古典的条件付け				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	3	古典的条件付け				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	4	味覚嫌悪・高次条件付け				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	5	オペラント条件付け(オペラントメカニズム)				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	6	三項随伴性・強化メカニズム				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	7	正負の強化				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	8	消化のスケジュール				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	9	社会的学習(観察・学習)				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	10	社会的学習(模倣学習・問題解決)				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	11	視覚(視覚の基盤・眼球)				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	12	視覚・学習・復習				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	13	視覚・学習・復習				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	14	まとめ				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
15	まとめ				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
評価方法	(1)レポートを数回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○	◎				90%
	レポート	○	◎				10%
履修上の注意							

科目名	リハビリテーション概論						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	30時間	担当者	三田 智巳		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	言語聴覚学科 2年						
授業概要	合同合宿を通して ①リハビリテーションの基礎を知る。②チームアプローチの重要性を理解する。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○			○		合宿後の振り返りで、レポートを正しく提出できる。	
				○		合宿のための話し合いで、積極的に参加できる。	
				○		与えられた係を、責任をもって遂行できる。	
テキスト・教材 参考図書	無し。						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1				総括は指示内容を把握しておく。		
	2	合同合宿準備:			各係のリーダーを中心に、1年生と合同で話し合いを すすめる。		
	3	合同合宿の企画、運営について、クラス内で話し合い、1年生と 協力して進めていく。各 係ごとの話し合いと共に、全体での共 有の時間を設け、よりよい合宿を運営するための 協議を重ね る。			進捗状況の確認。		
	4				進捗状況の確認。		
	5				進捗状況の確認。		
	6				最終確認。		
	7				安全に合宿を遂行する。		
	8				安全に合宿を遂行する。		
	9				安全に合宿を遂行する。		
	10	合同合宿(レクリエーション、講義等):			安全に合宿を遂行する。		
	11	2日間の合同合宿を実際に、安全に楽しく運営する。レポートを 書き、振り返りを行う。			安全に合宿を遂行する。		
	12				安全に合宿を遂行する。		
	13				安全に合宿を遂行する。		
	14				安全に合宿を遂行する。		
15				安全に合宿を遂行する。			
評価方法	(1)レポートを数回実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	レポート	○			○		100%
履修上の注意							

科目名	言語聴覚障害総論Ⅲ						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	三田 智巳		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	病院において 言語聴覚士として勤務		
対象学科・学年	言語聴覚学科 2年						
授業概要	言語聴覚療法に関わる、これまで学んだ知識や技術を統合できるように、実習の目的について理解を促す。また、実習に取り組んだ成果を振り返ることにより、学んだ知識や技術を実践に結びつけていけること、そして医療従事者としての心構えを、身につけることも目標とする。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				1年次の1日見学実習について振り返り得られた観察点や言語聴覚療法についての感想を要約し説明できる。	
	○	○				グループ活動における留意点や効果的な取り組み姿勢について理解する。	
	○	○	○			医療従事者としての行動や身だしなみなどのマナーを理解し実践することができる。	
	○	○		○		対人技能を身につけ、インテークが基本的に施行でき、そしてその意味について説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	プリント資料、評価実習の手引き						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	1日見学実習報告会			事前に報告会資料を読み質問事項を考えておくこと		
	2	1日見学実習報告会			事前に報告会資料を読み質問事項を考えておくこと		
	3	1日見学実習報告会			事前に報告会資料を読み質問事項を考えておくこと		
	4	合同合宿を振り返る			グループについて話し合った内容をレポートとしてまとめる		
	5	合同合宿における問題点や今後の課題について発表			グループでレポートとしてまとめたものの発表準備をしておくこと		
	6	医療における対人技能とは			資料をもとに復習しておくこと		
	7	医療職としての対人技能の実際			本日演習したことを、自主的に練習しておくこと		
	8	医療職対人技能テスト			事前練習と振り返りをする		
	9	医療職対人技能テスト			事前練習と振り返りをする		
	10	医療職対人技能テスト			事前練習と振り返りをする		
	11	言語聴覚療法におけるインテークとは			資料をもとに復習しておくこと		
	12	言語聴覚療法におけるインテークの実際			本日の演習内容について自主的に練習しておくこと		
	13	インテーク実技テスト			事前練習と振り返りをする		
	14	インテーク実技テスト			事前練習と振り返りをする		
	15	まとめ					
評価方法	(1)授業の中で実技テストを実施する。(2)レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				50%
	実技テスト	◎	○	◎	◎		40%
	レポート	○	◎				10%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	失語症Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	60時間	担当者	小川 春美		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員担当科目	病院において言語聴覚士として勤務		
対象学科・学年	言語聴覚学科 2年						
授業概要	1. 失語症に関わる各種検査法を学び、評価・診断について理解する。2. 評価・診断をもとに治療法の理論と目的・効果について理解する。						
授業形式	講義: △	演習:	実習:	実技: ○	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				失語症の評価の目的と流れを説明することができる。	
	○	○				失語症の評価に必要な、基礎的な観察ができる。	
	○	○	○	○		各種失語症の検査および関連検査を実施できる。	
	○	○				検査結果から、結果の解釈、問題点の抽出、訓練の立案ができる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書:藤田郁代監修 失語症学 医学書院 2009 参考文献:石川 裕治編著 改訂 失語症 建帛社 2012 その他 :SLTA 標準失語症検査 マニュアル						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	失語症のリハビリテーション 評価・診断とは 言語とコミュニケーションの障害				失語症の言語とコミュニケーションについて復習しておく。 4回目に小テストを行うため、準備をすること。	
	2	評価の流れ・評価上の注意 失語症の検査・神経心理学				評価の流れはプリント、検査・神経心理学的検査については教科書を読み復習しておく。	
	3	言語・医学・関連行動・生活 インタビュー面接・スクリーニング検査				面接や検査での情報収集について、プリントにある注意事項を確認しておく。	
	4	総合的失語症検査 標準失語症検査(SLTA) 小テスト				今回は非言語面を含めた情報の収集を行うため高次脳機能の検査項目を確認しておく。	
	5	言語課題・非言語性検査 WAB失語症検査・失語症鑑別診断検査				検査の結果や関連情報を合わせて失語症について考えるため項目を復習しておくこと。	
	6	検査結果の解釈 理解面・表出面のまとめ				検査結果の解釈のプリントを確認しておく。総合的失語症検査について、小テストの準備をしておく。	
	7	掘り下げ検査について 重度失語症検査 小テスト				掘り下げ検査の理解について、前回プリントのをもとに、言語の各側面について考えておくこと。	
	8	コミュニケーションの評価 実用コミュニケーション能力検査(CADL)				プリントのCADLの特徴の箇所と合わせ、コミュニケーションの評価について復習しておく。	
	9	単語レベルの検査 文レベルの検査				失語症の情報処理メカニズムや掘り下げ検査についての小テストの準備をすること。	
	10	文レベルの検査 構文検査・トークンテスト 小テスト				鑑別について学ぶため、関連障害の言語症状を上げられるようにしておくこと。	
	11	関連障害と鑑別 高次脳機能障害 関連障害と鑑別 発声発語障害				関連障害との鑑別について理解するため、検査の結果と関連行動面の箇所を確認しておく。	
	12	失語症治療の背景・流れ・治療上の注意 目標設定・訓練立案・治療の基本事項				テキストの事例の項を通読すること。鑑別診断を含めた小テストの準備をしておく。	
	13	言語聴覚療法計画 治療形態 言語聴覚療法計画 記録物について 小テスト				評価についてディスカッションをするためテキストの評価の項を通読すること。	
	14	失語症のリハビリテーション				結果の解釈について試験で記述できるよう学習しておく。	
15	まとめ				実技試験について実施内容確認しておく。まとめのプリントを復習すること。		
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)定期試験(筆記・実技)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				60%
	小テスト	◎	◎				20%
定期試験(実技)			◎	◎		20%	
履修上の注意							

科目名	高次脳機能障害Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	30時間	担当者	三田 智巳		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	言語聴覚学科 2年						
授業概要	高次脳機能障害における評価の手順(観察を含む)を組み立てることができる。神経心理検査の使い方を確認し、各領域の検査概要を覚える。特にコース立方体組み合わせテスト、レーブン色彩マトリシス検査、改訂 長谷川式簡易知能評価スケール(HDS-R)、Mini-Mental State Examination(MMSE)については確実に実施できるようになる。その他の高次脳機能障害の検査についても、概要を理解し、実施するための知識を身に付ける。国家試験対策のため、小テストの解説を覚え、アウトプットできる。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技: △	※ 主たる方法: ○ その他: △		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○	○			実技テストにて、正しく検査が遂行できる。	
	○					高次脳機能障害の検査について説明できる。	
	○	○				国家試験問題を解くことができる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書: 高齢者のための知的機能検査の手引き ワールドプランニング 高次脳機能障害ポケットマニュアル第3版 医歯薬出版 参考文献: 全部見える 脳・神経疾患—スーパービジュアル 徹底図解でまるごとわかる!、高次脳機能障害マエストロシリーズ② 医歯薬出版 その他 標準言語聴覚障害学 高次脳機能障害学 医学書院						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	ガイダンス、神経心理検査の概要。コース立方体組み合わせテスト、			1年次の予習をしておく。Classilによる予習。		
	2	コース立方体組み合わせテスト、レーブン色彩マトリシス検査、			Classilによる予習。小テスト予習。		
	3	レーブン色彩マトリシス検査、改訂 長谷川式簡易知能評価スケール(HDS-R)、			Classilによる予習。小テスト予習。		
	4	改訂 長谷川式簡易知能評価スケール(HDS-R)、Mini-Mental State Examination(MMSE)			Classilによる予習。小テスト予習。		
	5	Mini-Mental State Examination(MMSE)、演習			Classilによる予習。小テスト予習。		
	6	WAIS-Ⅲ、Ⅳの実施方法(動作性検査)					
	7	WAIS-Ⅲ、Ⅳの実施方法(動作性検査)(言語性検査)					
	8	WAIS-Ⅲ、Ⅳの実施方法(言語性検査)					
	9	実技テスト(コース立方体組み合わせテスト、RCPM、HDS-R、MMSE)			実技テストの予習。		
	10	実技テスト(コース立方体組み合わせテスト、RCPM、HDS-R、MMSE)			実技テストの予習。		
	11	WAIS-Ⅲ、Ⅳ(考察)			Classilによる予習。		
	12	WAIS-Ⅲ、Ⅳ(症例検討)			Classilによる予習。小テスト予習。		
	13	注意機能検査(TMT、BIT)			小テスト予習。		
	14	注意機能検査(BIT)			小テスト予習。		
15	まとめ						
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)定期試験(筆記実技)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○	○				60%
	小テスト	○	○				20%
	実技		○	○			20%
履修上の注意							

科目名	言語発達障害Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	30時間	担当者	浅田 里美・吉次 春香		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	言語聴覚学科 2年						
授業概要	1.脳性麻痺児の特徴と発達上の問題を理解する。2.言語発達障害と摂食機能障害の評価と訓練について理解する。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				脳性麻痺を引き起こす原因について説明することができる	
	○	○				それぞれの症状について説明することができる	
	○	○				脳性麻痺児の発達上の問題点を説明することができる	
	○	○				脳性麻痺児におけるコミュニケーション上の問題点を列挙しアプローチを説明することができる	
	○	○				脳性麻痺児の摂食嚥下の問題点を列挙しアプローチを説明することができる	
テキスト・教材 参考図書	教科書： 言語発達障害Ⅲ(言語聴覚療法シリーズ 12)建帛社 いただきます 摂食研究グループ発行						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	脳性麻痺とは			授業内容に該当する教科書の復習をする		
	2	正常発達			授業内容に該当する教科書の復習をする		
	3	脳性麻痺児の発達上の問題			授業内容に該当する教科書の復習をする		
	4	脳性麻痺児のコミュニケーション上の問題			授業内容に該当する教科書の復習をする		
	5	摂食機能の発達			授業内容に該当する教科書の復習をする		
	6	摂食機能訓練のポイント			授業内容に該当する教科書の復習をする		
	7	摂食機能訓練の基礎(実習)			本日の実習における実技内容について演習する		
	8	脳性麻痺児の摂食評価と訓練の実際			授業内容に該当する教科書の復習をする		
	9	脳性麻痺児の言語発達障害とその特徴(1)			授業内容に該当する教科書の復習をする		
	10	脳性麻痺児の言語発達障害とその特徴(2)			授業内容に該当する教科書の復習をする		
	11	施設見学			これまでに学んだ基礎知識をもって観察視点を整理する		
	12	施設見学			これまでに学んだ基礎知識をもって観察視点を整理することができる		
	13	脳性麻痺児の評価と具体的アプローチ(1)			これまでに学んだ基礎知識を利用し、問題点を深める		
	14	脳性麻痺児の評価と具体的アプローチ(2)			これまでに学んだ基礎知識を利用し、問題点を深める		
	15	まとめ					
評価方法	(1)レポートを数回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				90%
	レポート	◎	◎				10%
履修上の注意	演習の際に、必要備品や食品持参が必要になります。また、演習の回はズボンで受講してください。						

科目名	言語発達障害Ⅲ						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	30時間	担当者	永野 淳子		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	言語聴覚学科 2年						
授業概要	1. ADHDおよび学習障害の定義・原因・診断方法 2. ADHDおよび学習障害の特性とアセスメント方法 3. ADHDおよび学習障害へのアセスメントをもとにした対応方法 4. 個別教育計画について						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				ADHD、学習障害の定義・原因・診断方法について述べるができる	
	○	○				ADHD、学習障害の特性とアセスメント方法について説明できる	
	○	○	○			ADHD、学習障害のアセスメントに基づいた対応方法を述べるができる	
	○	○				個別支援計画について説明できる	
テキスト・教材 参考図書	教科書:田中康雄「イラスト図解 発達障害の子どもの心と行動がわかる本」西東社 参考文献: 榊原洋一「図解 よくわかるADHD(注意欠陥多動性障害)」ナツメ社、上野一彦・梅津亜希子・服部美佳子「軽度発達障害の心理アセスメント」日本文化科学社、藤田和弘「長所活用型指導で子どもが変わるPart1,2,3」図書文化、田中康雄「軽度発達障害のあるこのライフサイクルに合わせた理解と対応」学研、杉山登志郎「子どもの発達障害と情緒障害」講談社						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	ADHD 注意とは？基礎知識・原因・症状・診断			教科書で予習復習をする		
	2	ADHD 対応方法と予後			教科書で予習復習をする		
	3	学習障害 体験実習・原因			体験実習の感想をまとめる		
	4	学習障害 症状・診断			教科書で予習復習をする		
	5	WISC-IV			記録用紙・マニュアル・検査用具を使って復習する		
	6	WISC-IV			記録用紙・マニュアル・検査用具を使って復習する		
	7	学習障害児 Wechsler検査の生かし方			資料を読み返しておく		
	8	KABC- II			記録用紙・マニュアル・検査用具を使って復習する		
	9	KABC- II			記録用紙・マニュアル・検査用具を使って復習する		
	10	DN-CAS			記録用紙・マニュアル・検査用具を使って復習する		
	11	学習障害児 ADHD 知能検査の生かし方			資料を読み返しておく		
	12	結果の伝え方と連携			教科書、資料で予習復習をする		
	13	学習障害児・ADHDのための個別教育計画			資料を読み返しておく		
	14	障害受容			資料を読み返しておく		
	15	まとめ			授業で学んだことを項目別にまとめ、試験対策をする		
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				100%
履修上の注意							

科目名	言語発達障害Ⅳ						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	30時間	担当者	福島 志津		
実施年度	2019年度	実施時期	通年(前期)	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	言語聴覚学科 2年						
授業概要	自閉症スペクトラムの基本的特性と臨床像を理解し、評価および支援の方法を理解する。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				自閉症スペクトラム障害の基本的概念と診断基準を説明できる	
	○	○				臨床像(特性)を4領域(語彙・言語、発声発語、認知、語用)の側面から説明できる	
	○		○			コミュニケーション能力評価のための検査を実施できる	
テキスト・教材 参考図書	教科書:言語聴覚士のための言語発達障害学-第2版- 石田宏代・石坂郁代:編 (医歯薬出版株式会社) 自閉スペクトラムのある子を理解して育てる本 田中哲・藤原里美:監修 (学研)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	自閉症スペクトラム障害(自閉スペクトラム症:ASD)とは				教科書の予習をしておく 教科書、資料の見直し	
	2	自閉症スペクトラム障害の定義の変遷				教科書の予習をしておく 教科書、資料の見直し	
	3	自閉症スペクトラム障害の診断基準 ①DSM-5				教科書の予習をしておく 教科書、資料の見直し	
	4	自閉症スペクトラム障害の診断基準 ②ICD-10とICD-11				教科書の予習をしておく 教科書、資料の見直し	
	5	自閉症スペクトラム障害の特徴 ①社会性の問題				教科書の予習をしておく 教科書、資料の見直し	
	6	自閉症スペクトラム障害の特徴 ②コミュニケーションの問題				教科書の予習をしておく 教科書、資料の見直し	
	7	自閉症スペクトラム障害の特徴 ③イマジネーションの問題				教科書の予習をしておく 教科書、資料の見直し	
	8	自閉症スペクトラム障害の包括的アセスメント ①一次評価				教科書の予習をしておく 教科書、資料の見直し	
	9	自閉症スペクトラム障害の包括的アセスメント ②二次評価				教科書の予習をしておく 教科書、資料の見直し	
	10	自閉症スペクトラム障害の包括的アセスメント ③評価のまとめと支援				教科書の予習をしておく 教科書、資料の見直し	
	11	自閉症スペクトラム障害のアセスメントツール				資料の予習をしておく 資料の見直し	
	12	演習～コミュニケーション能力評価～(質問-応答関係検査)				演習の実技練習	
	13	演習～コミュニケーション能力評価の結果のまとめ方～(質問-応答関係検査)				結果のまとめ方をグループで再確認しておく	
	14	演習のまとめ				検査の実際～評価のまとめまでの一連を復習する	
15	まとめ				前期に学習したことをまとめ、定期試験対策を行う		
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				85%
	小テスト	◎	◎				15%
履修上の注意							

科目名	言語発達障害V						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	30時間	担当者	梶原 智寿		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	言語聴覚学科 2年						
授業概要	発達検査の特性の理解 新版K式発達検査の特性の理解 検査結果のまとめ						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				発達検査と知能検査の違いについて述べるができる	
	○	○				新版K式発達検査の概要を述べるができる	
	○					手引書に沿って、新版K式発達検査を実施できる	
	○					手引書に沿って、新版K式発達検査結果をプロフィールに記入できる	
テキスト・教材 参考図書	教科書『新版K式発達検査2001 実施手引書』編著者:生澤雅夫 松下裕 中瀬惇 出版:京都国際社会福祉センター						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	発達検査について／新版K式発達検査の意義・目的			教科書で復習する		
	2	実施上の注意／検査用紙・検査問題の構成について			教科書で復習する		
	3	演習(3～4葉 言語領域中心)			記録用紙・手引書で予習復習する		
	4	演習(3～4葉 言語領域中心)			記録用紙・手引書で予習復習する		
	5	演習(3～4葉 認知領域中心)			記録用紙・手引書で予習復習する		
	6	演習(3～4葉 認知領域中心)			記録用紙・手引書で予習復習する		
	7	演習(3～4葉 認知領域中心)			記録用紙・手引書で予習復習する		
	8	演習(1～2葉)			記録用紙・手引書で予習復習する		
	9	演習(1～2葉)			記録用紙・手引書で予習復習する		
	10	記録よりプロフィール線の書き方・得点化・DQ・DAの求め方			記録用紙・手引書で予習復習する		
	11	判定・記録・得点化・結果の出し方の練習			記録用紙・手引書で予習復習する		
	12	判定・記録・得点化・結果の出し方の練習			記録用紙・手引書で予習復習する		
	13	検査結果のまとめ方			記録用紙・手引書で予習復習する		
	14	検査結果のまとめ方			記録用紙・手引書で予習復習する		
15	まとめ			学んだことを整理し、まとめ、試験対策をする			
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				100%
履修上の注意							

科目名	器質性構音障害						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	30時間	担当者	城丸 みさと		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	言語聴覚学科 2年						
授業概要	小児の言語障害で大きな比重を占める構音障害のうち、器質性構音障害(主に口蓋裂)について学ぶ。器質性構音障害の基礎知識、具体的な検査、指導訓練の基礎を身に付けることを目標とする。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				構音障害の種類について概要を説明できる	
	○	○				器質性構音障害における構音障害の特徴について説明できる	
	○	○				口蓋裂の病態について説明することができる	
	○	○				口蓋裂による構音障害の発現機序について説明することができる	
	○					器質性構音障害の検査、指導、訓練について基本的な実践できる	
テキスト・教材 参考図書	教科書:医学書院「口蓋裂の言語治療」岡崎恵子編著 建帛社 言語聴覚療法シリーズ8「器質性構音障害」						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	基礎知識:小児の構音障害概説と音声表記復習			本日の授業資料を通して理解を深める		
	2	基礎知識:未熟構音と異常構音			本日の授業資料を通して理解を深める		
	3	基礎知識:異常構音の種類と特徴—その1			本日の授業資料を通して理解を深める		
	4	口蓋裂の発生と解剖			本日の授業資料を通して理解を深める		
	5	口蓋裂の基礎知識:手術と術後の対応			本日の授業資料を通して理解を深める		
	6	検査:発声発語器官に関する検査:口腔内視診			本日の授業資料を通して理解を深める		
	7	鼻咽腔閉鎖機能に関する検査			本日の授業資料を通して理解を深める		
	8	指導・訓練:音の獲得の段階			本日の授業資料を通して理解を深める		
	9	指導・訓練:会話への般化まで			本日の授業資料を通して理解を深める		
	10	構音訓練・検査のまとめ			本日の授業資料を通して理解を深める		
	11	鼻咽腔閉鎖機能不全に対応する2次的対応			本日の授業資料を通して理解を深める		
	12	口蓋裂治療パノラマ(復習)とその他の器質的構音障害			本日の授業資料を通して理解を深める		
	13	その他の器質的構音障害(口腔・中咽頭癌など)			本日の授業資料を通して理解を深める		
	14	国家試験の傾向と対策			まとめの内容を復習し、定期試験対策としてまとめる		
15	まとめ						
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)		◎				80%
	小テスト		◎				10%
	宿題・レポート		◎				10%
履修上の注意							

科目名	運動障害性構音障害 I						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	30時間	担当者	灘吉 享子		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	言語聴覚学科 2年						
授業概要	1) 構音運動のメカニズムについて理解し説明できる。2) 構音障害の特徴について理解し、運動障害性構音障害の診断と分類ができる。3) 言語聴覚士に必要なふるまいやコミュニケーション態度、学習能力の基礎を築き、個人の課題を具体的に見つけることができる。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				運動障害性構音障害の発生機序を説明するために、構造と機能を説明することができる。	
	○	○				運動障害性構音障害の病態について説明できる。構音障害の発現機序を説明できる。	
		○	○			運動障害性構音障害について、一般情報収集から問診および検査について説明できる。	
				○		言語聴覚士としてのふるまいについてイメージをもち、態度に反映することができる。	
			○	○		授業において疑問に思うことができ、問題解決のために質問に結びつけることができる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書:ディサースリア臨床標準テキスト 西尾 正輝著/インテルナ出版 運動障害性構音障害学 廣瀬 肇 他 著/医歯薬出版株式会社 標準言語聴覚障害学 発声発語障害学 熊倉勇美ら編集/医学書院						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	構音障害の概念と分類/運動障害性構音障害とは			1年次臨床神経科学、音声学、解剖学といった関連する知識の資料整理		
	2	運動障害性構音障害の問題と今後/発声発語と神経・筋系のしくみ(肺)			1年次保健体育、解剖学など関連する教科の復習		
	3	発声発語と神経・筋系のしくみ(喉頭・構音に関与する器官)			1年次保健体育、解剖学など関連する教科の復習		
	4	運動系の基礎理解			1年次、臨床神経科学の復習		
	5	運動系の障害			class課題		
	6	運動系の障害			1年次臨床神経科学の知識と合わせた理解のための復習		
	7	聴覚的発話特徴			サンプルCDの聴取課題		
	8	運動障害性構音障害のタイプと発話特徴			サンプルCDの聴取課題		
	9	運動障害性構音障害のタイプと発話特徴			サンプルCDの聴取課題		
	10	運動障害性構音障害のタイプと発話特徴			サンプルCDの聴取課題		
	11	運動障害性構音障害のタイプと発話特徴			サンプルCDの聴取課題		
	12	確認テスト/検査と評価			テスト内容の振り返り復習		
	13	検査と評価			実技演習		
	14	評価(一般情報の収集)			実技演習		
15	まとめ						
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				70%
	小テスト	◎					10%
	宿題・レポート	◎	◎				10%
	実技グループ発表	◎		○	◎		10%
履修上の注意							

科目名	嚥下障害 I						
科目名(英)							
単位数	2	時間数	60時間	担当者	星子 隆裕		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	言語聴覚学科 2年						
授業概要	摂食嚥下障害の臨床活動に必要な基礎知識を習得します。初期の目標は、食に関わる機能を学び、摂食時に何が行われているのかを説明することができるようになることです。中間期は機能が正常とは言いがたくなったときの困難さと、何に困っているのか、その原因は何なのかを知る手段を学びます。終講までには、困難さを持った方々への援助方法を学びます。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技: △	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				摂食嚥下に関わる構造と機能を概説することができる。摂食嚥下のモデルを説明できる。	
	○	○				摂食嚥下障害の病態を説明できる。誤嚥の発生機序を説明することができる。	
		○	○			摂食嚥下の検査を概説できる。摂食嚥下の予後予測に関わる項目を列挙できる。	
				○	○	授業時に質問ができる。理解していないことを自ら確認することができる。	
			○	○		嚥下運動を確認できる。模擬的に評価演習を行うことができる。反応を記録することができる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書:標準言語聴覚障害学 摂食嚥下障害学 第3版 医歯薬出版株式会社 嚥下障害ポケットマニュアル 第3版 医歯薬出版株式会社						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	嚥下障害総論・嚥下障害学で学ぶこと ケースワーク:臨床の流れを想像する			1年次保健体育の復習		
	2	構造と機能を知識として修得する 構造と機能を見て触れるようになる			Classilによる課題		
	3	5期モデル プロセスモデル			レポート		
	4	摂食嚥下機能の経年変化 摂食嚥下の病態(CVA)			論文検索とレビュー		
	5	摂食嚥下の病態(グループワーク) 摂食嚥下の病態(グループワーク)			発表会資料作成		
	6	学習発表会 学習発表会			Classilによる課題		
	7	中間試験 初回面接			実技自主練習		
	8	初回面接実技 初回面接実技			実技自主練習		
	9	嚥下スクリーニング 嚥下スクリーニング			実技自主練習		
	10	嚥下評価実技 嚥下評価実技			実技自主練習		
	11	嚥下評価実技 嚥下造影検査			Classilによる課題		
	12	嚥下内視鏡検査 機器を用いた検査			Classilによる課題		
	13	機器を用いた検査 嚥下障害の判定・予後予測			Classilによる課題		
	14	食事観察 ケースワーク			授業資料のまとめ		
15	ケースワーク まとめ						
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				60%
	宿題・レポート		◎	◎			20%
	ケース発表			◎	◎		20%
履修上の注意							

科目名	聴覚障害Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	90分×15回	担当者	城丸 みさと		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	言語聴覚学科 2年						
授業概要	①聴覚障害の臨床を行うにあたり必要な“聴覚障害学”、“耳鼻咽喉科学”の基礎的知識を学ぶ。②各種聴覚検査の原理・目的を理解し、検査手順を身に着ける。③後期の“臨床”学習前段階として、小児難聴と中途失聴者との違いを理解する。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				聴覚器の構造と機能を説明することができる。	
	○	○				聴覚検査を列挙し、それぞれを概説することができる。	
				○		聴力検査を模擬的に実施することができる。	
				○	○	大聴者、難聴者の心理およびリハビリテーションについて自分の意見を述べるができる。	
	○	○				補聴器・人工内耳について概説することができる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書:①建帛社「言語聴覚シリーズ 改訂 聴覚障害Ⅰ」山田弘幸編著 ②建帛社「言語聴覚シリーズ 改訂 聴覚障害Ⅱ」山田弘幸編著 ③南山堂「聴覚検査法の実践」④イラスト耳鼻咽喉科 文光堂 参考文献:①医歯薬出版「言語聴覚士のための聴覚障害」喜多村健編集 ②文光堂「イラスト耳鼻咽喉科」森満 保						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	聴器の解剖と生理(復習)				まとめ資料を作成し、復習する。	
	2	聴覚検査 概論 (その種類と目的) その1				まとめ資料を作成し、復習する。	
	3	聴覚検査 概論 (その種類と目的) その2				まとめ資料を作成し、復習する。	
	4	耳疾患と難聴の種類				まとめ資料を作成し、復習する。	
	5	聴覚検査 標準純音聴力検査(復習)				検査手順のカンベを作成する。	
	6	聴覚検査 演習(中耳)				検査の練習を行っておくこと。	
	7	聴覚検査 語音聴力検査				検査の練習を行っておくこと。	
	8	聴覚補償機器の選択とコミュニケーションモード				まとめ資料を作成し、復習する。	
	9	中途失聴者の心理				まとめ資料を作成し、復習する。	
	10	中途失聴者のリハビリテーション				まとめ資料を作成し、復習する。	
	11	聴覚障害児者のためのコミュニケーション保障と社会資源				まとめ資料を作成し、復習する。	
	12	手話講習と当事者(聴覚障がい)講演				感想を記録する。	
	13	補聴器・人工内耳装着後のリハビリテーション				まとめ資料を作成し、復習する。	
	14	前期の総まとめ 臨床活動における教材作成について				まとめ資料を作成し、復習する。	
15	まとめ						
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)レポート (3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				80%
	小テスト		◎				10%
	宿題・レポート					◎	10%
履修上の注意							

科目名	聴覚障害VI						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	30時間	担当者	星子 隆裕		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	言語聴覚学科 2年						
授業概要	I. 視覚聴覚二重障がいを中心に重複障がいの基礎的知識を理解。 II. 盲ろう二重障がい児の言語発達を考える。 III. 盲ろう二重障がい児者の言語・コミュニケーション支援の在り方を学ぶ。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				視聴覚二重障害のタイプを列挙できる。視聴覚二重障害を概説できる。	
	○	○				タイプ別のコミュニケーションモダリティを提案することができる。	
				○	○	気づき、感想レポートを通して、他者の感情を受け入れることができる。	
			○	○		生活の中でさまざまな工夫に気が付くことができる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書:「知ってください 盲ろうについて」東京盲ろう者友の会編 「盲ろう者の移動介助」東京盲ろう者友の会編 参考文献:福岡聴覚障害センターより各種視聴覚資料を借用します。						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	視聴覚二重障害総論			気づき・感想レポート		
	2	ビデオ教材学習「社会に生きる」			気づき・感想レポート		
	3	ビデオ教材学習「アッシャー症候群とともに」			気づき・感想レポート		
	4	難聴者で現役ST講話			気づき・感想レポート		
	5	難聴者の声			気づき・感想レポート		
	6	視覚障がい者の声			気づき・感想レポート		
	7	中途失聴者の声			気づき・感想レポート		
	8	体験学習:グループワーク準備と予想			フィールドワーク準備		
	9	体験学習:グループワーク・情報遮断と生活活動			フィールドワークまとめ		
	10	体験学習発表会			気づき・感想レポート		
	11	盲ろう教育従事者の講話			気づき・感想レポート		
	12	盲ろう教育従事者の講話			気づき・感想レポート		
	13	盲ろう教育従事者の講話			気づき・感想レポート		
	14	国家試験対策学習			授業資料のまとめと振り返り学習		
15	まとめ						
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。(4)作品発表があります 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				60%
	小テスト・レポート				◎	◎	30%
	発表・作品			◎	◎		10%
履修上の注意	気づき・感想レポートは自分の気づきだけでなく、クラスメイトの気づきを記載してもよい。						

科目名	画像診断学						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	30時間	担当者	岡村 和俊・今村 博孝 鶴 博生		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	言語聴覚学科 2年						
授業概要	画像検査装置一般の概要を提示する。また画像によりえられる情報を提示する。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					画像検査装置の種類を列挙することができる。	
		○				画像検査の機械的原理を概説することができる。	
		○				頭部画像検査の結果と疾患病態などの情報を結びつけることができる。	
		○				嚙下造影検査について概説することができる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書:なし <今村・鶴先生> CD-ROMでレッスン 脳画像の読み方 医歯薬出版 参考文献:言語障害と画像診断 西村書店						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	画像診断学総論(岡村和俊)				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	2	放射線生物学(岡村和俊)				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	3	放射線防護学1(岡村和俊)				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	4	放射線防護学2(岡村和俊)				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	5	CT診断学(岡村和俊)				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	6	MR診断学(岡村和俊)				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	7	CT, MRI診断学(頭頸部)(岡村和俊)				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	8	嚙下の画像診断(岡村和俊)				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	9	脳機能画像(核医学など)(岡村和俊)				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	10	1-9のまとめ、復習(岡村和俊)				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	11	CT(岡村和俊)				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	12	CT(今村博孝)				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	13	MRI(岡村和俊)				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	14	MRI(鶴博生)				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
15	まとめ						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				100%
履修上の注意							